
花帰葬～それぞれの幸せ～

黒鷹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花帰葬〜それぞれの幸せ〜

【Nコード】

N1300B

【作者名】

黒鷹

【あらすじ】

黒鷹と白梟が飛び去り、確実にこの世界は破滅に向かっていった。生命の息吹を消し去るかのように、ただただ雪は降り積もる。そんな中、あいつが帰ってきたんだ……。

あれから、どのくらい経っただろうか。

黒鷹と白梟が飛び立って、世界が動物達だけの世界になって、そして……

俺と、花白しかいなかったのは。

「ねえ、玄冬。やっぱりさ、雪って綺麗だよね。」

「ああ……そうだな。」

そんな他愛ない会話をしていた俺たちだったけど、やっぱり、その時は来るものだ。

誰も予想しない、そんなときに。

「玄冬……僕さ、眠くなっちゃった。」

「じゃあ……寝ろ。」

「……一緒に、眠ろうよ。」

「仕方ないな。」

そうして、お前がもう1度目を覚ます事はなかった。

俺が目覚めた時には、お前はこの雪と同じくらいに冷たくなっていた。

それは、生き物には必ず訪れる、『死』という現象。止めようのない、世界の運命。

「結局、薬をうまく飲ませてやれなかったな。……花白。」

「それぞれの幸せ」

木は枯れ、地上は真っ白に染め上げられた。色も、音もない世界。そんな世界にも、俺はもう慣れてきた。

「やあ、玄冬。」

ゆつくりと瞼を開くと、見慣れた姿があった。

雪には絶対に溶け込まない漆黒のコートを身に纏い、赤い俺と同じ腕章をして、風変わりな帽子を被って、へらへらと笑っているあの男。

「……………」

「どうした？お父さんに会えて、感動しちゃったのかな？」

一瞬、声の出し方を忘れてしまっていた。何年も、何ヶ月も、口を開いたりしていないから。

「く、黒鷹……………」

「ん？何だい？」

「どうして…………ここにいるんだ。」

「ひどいなあ、人をおばけみたいに。」

確かに、黒鷹とは二度と会えないはず。いや、別に会いたかった訳じゃないが。

「あれ？ちびっこは？」

「……………」

俺は、視線を雪原に向けた。小さく丘になった雪原の上に、枯れた木の枝が立っている。

「死んだ。」

「そうか。まあ、あのちびっこは君と違って、普通の人間だからね。」

「で？お前は どうして戻ってきたんだ。あの主とかいう奴のところに行ったんじゃないかなかったのか？」

「この箱庭を、壊しに来たのさ。」

「え？」

「この箱庭は、もう壊れたも同然。だから、生きている人を排除して、箱庭の型を壊すのさ。」

「型？」

「まあ、いいじゃないか。作る側の事は。」

暦の上で何年経ったかはわからない。だが、長いときがたったのだ

ろ。それでも、黒鷹は変わらない。相変わらずの、突拍子もない格好。若い（様に見せている）くせに言葉はいつも見た目にそぐわない。

「俺は、どうしたらいいんだ？」

「本当は、君の存在を消さなければならんだよ。創世する側としてはね。けど、私は君の父親だ。そんな事は出来ない。それに、君は、救世主の手でないと、死ねない。」

「この世界が壊れても、俺はずっとこのままなんだな。」

「まあね。さて、どうしたものか。」

黒鷹は本当に困り果てた顔をして、小首をかしげた。

「主に頼めば、君を生かすことも、殺すことも出来る。」

「そうか……。俺は……。死にたい。」

「君って子は……。この世界は壊れたんだよ？もう、君に死ぬ義務はない。君が死んだって、喜ぶ人はもう、いないんだよ？」

「それでも、俺は……。この世界を壊した責任を取りたいんだ。それに、花白が俺を待ってる。」

「……。そうか。」

「そうですか、あの箱庭を。」

「ああ、壊してきたよ。息子と共にね。」

黒鷹は、主の家で白梟と茶を交わしていた。

「息子？……。まさか、玄冬は生きていたのですか？では、花白は……。」

「あのちびっこは、雪の中だよ。」

「そう……。ですか。」

顔をうつむかせる白梟。彼女も、彼女なりに、花白を愛し、息子と思っていたのだから仕方ないことだろう。

「それにしても、私は子育てに向いているのではないだろうか。」

「は？」

「いや、いい子に育ってくれたなど、思ってね。」

「多分、あなたは『教育』に1番縁遠いと思います。」

「ははは。そうかもしれないな。」

黒鷹は幸せそうに微笑んでいた。

『俺は、お前や花白と一緒に過ごせて、この世界に生きて……
幸せだったと思う』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1300b/>

花帰葬～それぞれの幸せ～

2010年10月14日13時15分発行